

国境・民族・文化を超えて共に生きる心豊かな社会の構築に寄与し、市民による福祉文化の創造をめざします。



こころの家族

2026年5月
369号 (隔月刊)

人にしかできない仕事とは何か

いま私たちは、大きな時代の転換点に立っています。AIの進歩によって、多くの仕事が効率化され、これまで人間が担ってきた役割が変わりつつあります。データ処理や分析、定型的な業務は、今後ますますAIが担っていくでしょう。

そのような時代において、私たちは一つの問いに向き合わなければなりません。「人にしかできない仕事とは何か」という問いです。

私は長年、社会福祉の現場で、孤児や高齢者と共に歩んできました。その経験から確信していることがあります。それは、人は決して一人では生きていけないということ、そして人は人によって支えられる存在だということです。

どれほど立派な制度があっても、どれほど物が満たされても、人の心の孤独は埋まりません。誰かがそばにいて、自分の話を聞いてくれる。自分の存在を認めてくれる。その関係の中でこそ、人は生きる希望を見いだします。

キリスト教の教えに「隣人を愛しなさい」という言葉があります。これは単なる道徳ではなく、人が人として生きるための根本の原理だと私は思います。

AIは多くのことを可能にします。しかし、人を愛すること、人の痛みと共に涙すること、その人の尊厳を守ることは、機械にはできません。

これからの時代に必要なのは、効率だけではなく、「共に生きる力」です。社会福祉とは、まさにその実践であり、人間の本質に関わる仕事です。

AI時代とは、人間の役割が失われる時代ではありません。むしろ、人間の本当の価値が問われる時代です。

他者のために尽くし、隣人を愛し、共に生きる。その働きは、これからも決してなくならないどころか、ますます重要になっていくでしょう。

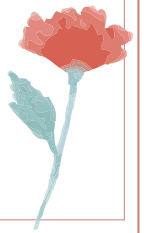
社会福祉法人こころの家族
尹基 (Tauchi Motoi)



桜を愛でながら「ふるさとカフェ」(故郷の家で)

阿部志郎先生、

100歳おめでとうございます！



いつもこのころの家族のことを気にかけてくださる阿部志郎先生（神奈川県立保健福祉大学名誉学長）が今年2月1日、100歳を迎えられました。なんとすばらしいことでしょう。

このころの家族の尹基理事長、田内文枝総括理事、田内緑常務理事がお祝いに駆けつけ、阿部先生は元気な笑顔で歓迎してくださったということです。

本も出版されました

100歳を契機に「良心に生きる／阿部志郎歩みは福祉とともに」も発刊されました。岸

川洋治さん（横須賀基督教社会館館長）監修。表題作「良心に生きる」、阿部志郎のことば50選（松井直樹）「現代日本における地



域社会の現状と阿部志郎先生の福祉哲学』（市川一宏）ほか収録。A5判176ページ、2200円。問い合わせは横須賀基督教社会館へ。046-861-9773

阿部先生、これからも私たちを見守ってくださいようお願いします。

旭日双光章受章記念祝賀会 開く

昨年秋、当法人の尹基（Tauchi Motoi）理事長が旭日双光章を受章したことを受け4月24日、ホテルグランヴィア京都での記念祝賀会。同会の呼びかけ人代表の門川大作前京都市長は「受章後、様々なところから祝賀会の開催をと熱望されていましたが理事長は断り続けておられました。この度、京都を中心に開催のお許しを受けやっと実現させていただきました」と、挨拶されました。以下は尹基理事長の謝辞です。

本日、このような場に立たせていただいていることは、私一人の力ではなく、ただ一言、「おかげさまで」という言葉に尽きます。

まず、神様に感謝します。

そして両親のおかげです。

また、私を支え、応援してくださった皆さまのおかげです。

私を信じ、共生園と故郷の家の働きに共に歩んでくださったのおかげです。

本当にありがとうございました。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

尹基 (Tauchi Motoi)

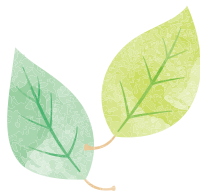
田内文枝



高齢者に安心を



より快適な環境づくりに 参加してくださいませんか



■ 故郷の家（堺） 外壁にひび割れ多数 補修工事が必要です

施設建物の外壁について確認したところ、施設全体にわたり外壁のクラック（ひび割れ）が多数見受けられるほか、一部では鉄筋の露出も確認されています。（写真右）

このままの状態が続くと、外壁から施設内部への雨水の侵入が発生する可能性が高く、建物の防水機能の低下や外壁の強度低下がさらに進行する恐れがあります。



■ 故郷の家・神戸 屋上防水工事が必要です



現在の屋上は、ゴムシート防水が施行されていますが、25年という長い歳月による劣化で雨水侵入の可能性が出てきました。

庇（ひさし）のモルタル仕上げにもひび割れがあり、早期に防水改修を行う必要があります。（写真左）



■ 故郷の家・京都 屋上ウッドデッキが劣化

地面に敷いているウッドデッキが経年劣化により外れてきました。タイルを敷く施工方法で改修を予定しております。

（写真右）



社会福祉法人への寄付は税制優遇の対象となる場合があります。

ご寄付は郵便振替または法人事務局にて受け付けております。

郵便振替 口座番号：00940-0-329280

加入者名：社会福祉法人こころの家族

（お振込の際には施設を、右記の番号でご指定ください）

- 1 私は故郷の家のために協力します。
- 2 私は故郷の家・神戸のために協力します。
- 3 私は故郷の家・京都のために協力します。
- 4 私は故郷の家・東京のために協力します。
- 5 私は故郷の家・大阪のために協力します。

堺は開設37年目、神戸は25年、京都は17年経過。故郷の家各施設では、比較的新しい東京を除き、施設の老朽化が問題となっています。外壁のひび割れ、通路の舗装、屋上は雨水漏れの可能性。さまざまな不具合が発生、入居者の皆さまに安全に暮らしていただくために、補修が急務です。大規模な改修には多額の費用が必要となりますが、法人の力だけでは十分に対応できません。皆様のご協力をお願いいたします。

偶然読んだ理事長の投稿

故郷の家・京都ケアハウス
田花安子さん（89歳）



故郷の家・京都は当法人で唯一の一般型ケアハウスがある施設です。2009年、ケアハウス新設とほぼ同時期に入居された田花安子さん。田花さんと故郷の家を結んだのは、当法人のルーツ「共生園」で韓国孤児の母と慕われた田内千鶴子でした。

私は1937年3月22日、韓国京畿道京城府で3人姉妹の次女として生まれました。父は教育学者でした。東京帝国大学を卒業後、千葉県の師範学校や香川県の女子高等



学校の教頭などを勤めた後のちのソウル大学となる京城帝国大学に勤めていました。しかしその後第2次世界大戦に。終戦時、「日本は負けた」と記したビラをB29がまき、大量のビラが青い空にキラキラと風に舞いながら落ちてくる風景が今でも忘れられません。姉が小学校5年生、私が3年生、妹が就学前に日本に引き揚げました。引き揚げ後は、父の生家の山形県鶴岡市のお寺に家族で身を寄せて、父の兄家族と大勢で暮らしました。日本では47年5月から

教育の新制度が始まり、父は青森県の弘前大学をまとめるために赴任。家族で青森県に移り住みました。それまで私は知らなかったのですが母は東京藝術大学を卒業したメゾソプラノの声楽家だったんです！香川県の高等女学校で音楽の先生をしてたときに父と知り合い結婚した母は、青森県に来て

弘前大学で音楽の先生になりました。今、思い返せば母が一番輝いていた頃でした。

鶴岡市に居たときから私は教会の建物に憧れていました。父の実家がお寺だったこともあり家族に言い出せずにいたのね。引越しの荷物を片付けていたら教会の教理の本が出てきた。父に「教会に行つたの？」と聞くと「そうだよ」と。父は大学時代に国費で母とドイツに留学していたことがあり、宗教なしには語れない海外の文化もよく知っていたんだと思います。

両親に「教会に行ってみて」と言うと母が弘前のカトリック教会のミサに連れていってくれました。12月のクリスマススイブの礼拝にも行き、年明けから毎週日曜に通うようになりました。子どものための勉強会も楽しくて。20歳で洗礼を受けました。

高校進学の際、父は大阪大

学に着任。私は茨木市の春日丘高校から西京大学（現京都府立大学）に進学。生活化学を専攻し化学薬品会社に就職。でも仕事がつまらなくてね（笑）。玉川大学に通信教育制度があり受講。仕事の夏期休暇を取って、大学で講義を受けるとおもしろくて直接授業を受けたい、とそれまでの仕事を辞めました。そこで小学校と幼稚園の教諭の資格を取得。教員になり小学校に1年間、中高に2年間、大阪市の中学校では理科を教えています。その後、所属している

教会の宮城県角田市の開拓伝道に参加。立ち上げて教会附属の幼稚園の先生になりました。角田に7年間、仙台の昼屋町に5年間、青森県八戸市の教会に9年間、教会附属幼稚園に奉仕しました。忙しく仕事をしていたある日、父から電話があつてね。「新聞で田内千鶴子さんという方が韓国の孤児たちの募金のために東京にいらしている」とニュースで知った。すごい人だよ。引き揚げのとき、男の私でもつらく大変な思いをしたのに『女性の』田内さんはそれ以上のことをしていた」と、興奮した声で話しました。

父が亡くなったその後、ある日朝日新聞を見ていたら「論壇」に尹理事長の投稿を見つけたんです。「父が話した田内千鶴子さんの息子さんだ！」とびつくりして。

母を介護中にパソコンを購入。パソコンで様々なことを検索していたら「故郷の家」が出てきて。田内さんの息子さんが高齢者施設建設を実現したんだ、とうれしく見ていたらなんと、神戸にも開設され、京都にも施設がオープンされるとあります。しかもケアハウスも！と二重に驚きました。母を亡くしたあと、自宅の仙台の家で仲間と共に暮らすことも考えていましたが、京都のケアハウスを終の棲家としました。

故郷の家・京都のケアハウスで暮らし始めて16年。こちらを選んで本当に良かったと思つています。交通の便も良く、ここに住み始めた頃は、病気がつた姉と毎月のように東京に行き、その病気の患者会に参加したり、一時は毎月東京まで絵画を習いに行っていました。自由に生活でき、何かあれば職員さん方が助けてくださる。最高ですよ。

介護予防やリハビリに！ ワンポイント体操

故郷の家・東京 健康推進部／機能訓練士 任 淑絵

僧帽筋ストレッチ／立っても座っても

効果

- ・肩・首こりの改善
- ・フェイスラインの改善
- ・むくみ解消
- ・姿勢の改善
- ・頭痛の軽減

【手のひらを合わせて指を組む】

- ① 両手を前に伸ばす
 - ・両足底を床につけ、椅子に深く座り背筋を伸ばし両手を ゆっくり前に伸ばす
- ② 両手を上に伸ばす
 - ・手のひらは常に顔や頭に向かってるように
- ③ 両手を頭の上におろす
- ④ 両手を頭のうしろに回す
- ⑤ 肘をはる（肩甲骨を意識し、肘を広げる感じ）
 - ・頭のうしろに回した腕の肘を張って 15～20 秒止め、背筋をピンと伸ばす
- ⑥ 両手を頭の上に伸ばす（②と同）
 - ・5 秒止めて、①の姿勢に戻す



ポイント

肩甲骨を大きく動かす等、肩甲骨を意識して行くと効果的

※①～⑤の流れで 5 セットを目安に行い、2～3 か月継続して慣れてきたら 10 セットを 3 回程へと増やしてゆく

ヘルシーな 韓国料理

オサムプルコギ

故郷の家 栄養士 江口 あゆみ

韓国家庭料理オサムプルコギの紹介です。オサムとは、韓国語でイカ（オジンオ）のオ、豚肉（サムギョプサル）のサムから名づけられた、イカと豚肉のプルコギです。海鮮もお肉も同時に味わえる一品です。食事のおかずにもお酒のおつまみにもお楽しみいただけます。ぜひお試しくださいね♪



材料（2人分）

- ・イカ（生・1 杯）……………200 g
- ・豚バラ肉（薄切り）……………200 g
- ・玉ねぎ……………1 個
- ・にんじん……………1/3 本
- ・白ネギ……………1 本
- ・生姜……………10 g
- ・ニンニク……………1 片

☆旨辛ダレ

- ・粉唐辛子……………大さじ 2
- ・コチュジャン……………大さじ 2
- ・砂糖……………大さじ 2
- ・醤油……………大さじ 2
- ・料理酒……………大さじ 2
- ・ごま油……………大さじ 1
- ・こしょう……………少々
- ・白いりごま……………適量

作り方

- ①玉ねぎは 1 cm 幅に切ります。にんじんは 5 mm 幅の斜め切りにします。長ネギは縦に 5 mm 幅に切ります。生姜、ニンニクはみじん切りにします。
- ②イカは皮つきのまま胴を 2 cm 幅の輪切りにします。エンペラは 2 cm 幅に切り、ゲソは 2 本ずつに切り分けます。
豚バラ肉は 3 cm 幅に切ります。
- ③ボウルに旨辛ダレの材料を入れ、イカ・玉ねぎ・にんじん・白ネギ 1/4 とよく混ぜ合わせます。
- ④フライパンに生姜・ニンニク・豚バラ肉を入れて加熱し、火が通るまでしっかり炒め、③を入れてさらに強火で炒めます。
- ⑤最後にごま油を入れて軽く炒めます。
- ⑥火から下して器に盛り付け、白いりごま、白ネギを全体に散らして完成です。

座談会 今でも故郷の家・神戸が好き♪

2001年2月に神戸市長田区に「故郷の家・神戸」が創設され、今年25周年を迎えました。今号は25周年を記念して創設時、もしくは開設間もないころから当ホームを支え、共に昨年退職された3人にご登場いただき、松下良平施設長にも参加してもらいました。未曾有の阪神淡路大震災からまだ数年、集まった職員たちはチームワーク良く、一丸となって施設を作りあげました。それぞれの持ち場の職員だった方からのお話は「故郷の家・神戸」のこれまでの歩みを物語っています。

震災で二変した生活

——故郷の家・神戸に入職したきっかけを教えてください。

中村 私は地場産業の加工業の事業をしていましたが1995年の阪神淡路大震災で生活が一変。仕事が滞りアルバイトをしようと兵庫県の就労センターに登録。故郷の家・神戸での運転手の仕事を紹介され問い合わせたのですが、もう決まったと断られました。ところが、3日後に「故郷の家の田内です」と電話をいただき、「もし、まだお仕事が決まっていなかったら来てもらえませんか？」と採用が決まりました。

片岡 私も震災で約20年間勤めていた病院がぺちゃんこに。病院では外科を担当していて院長先生からも「ここで骨を埋めてくれるよね？」と言われそのつもりでした。ところが震災で建物壊れ再開のメドがたたない。そこで職安に行くと故郷の家・神戸を紹介してくれました。2月に開設されたばかりの施設で5月の始めに理事長と総括理事の面接を受けました。理事長が「高知県出身なんですね？ 私の母も高知が故郷なんですよ」と話されました。その時はまだ田内千鶴子さんを知りませんでした。帰り際に理事長が「愛の黙示録」のビデオテープを下さいました。家に帰ってすぐに見たら泣けて泣けて感激しました。このようなすごい方が理事長のお母様だと驚きました。デイサービスの看護師として採用が決まりましたが、韓国語も分からないし施設内も韓国の雰囲気がつぶりで「私に務まるかしら？」と不安でした。

浅野 私の入職は2003年8月1日です。母が亡くなって「何も親孝行ができなかった」とものすごく後悔して。ヘルパーの資格を取得したら親にできなかったことができるかな？と、ヘルパーの学校に行き、故郷の家の求人を見つけ面接を受けました。故郷の家・神戸が開設されたことは新聞報道で知っていました。

働き始めてしばらくして「あつ！テレビで見た!!」と、思い出したんです。1992年に田内千鶴子さんの生涯を紹介した日本テレビの番組「知ってるつもり？」を私は見ていたんです。日本人でこのような素晴らしい女性がいるんだと感動しながらテレビで見た田内千鶴子さんがルーツの施設で働けることを誇りに思いました。

仕事を通じて学んだ

——入職してからの仕事内容を教えてください。

中村 おもにご利用者さんのデイサービスとショートステイの送迎です。**片岡** 中村さんは送迎だけではなく、介護補助なども積極的に関わってくれて助かっていました。

松下 以前は毎月のお誕生会に韓国伝統芸術研究院のヤン先生がいらして舞踊を披露してくださっていましたが、その迎えに毎月大阪まで迎えに行ってくれたのが中村さんで、送るのが僕の仕事でした。韓国からの研修生を関西空港まで迎えに行ってくれたり、法人の運転手さんでもありました。

中村 いろんな方々の送迎をして私自身、勉強させてもらいました。人が喜んでくれると自分もうれしい。仲間にも恵まれて、病氣らしい病氣もなかったので80歳を迎えたのを機に昨年5月に23年間の勤務を終えました。

片岡 私はデイサービスの看護師として働き始めましたが、看護師として堺の施設の応援に行っていたこともあり。まだ息子のお弁当作りをしていた頃で週末だけ神戸に帰り、平日は理事長たちが用意してくれた宿泊施設で泊まり、堺での勤務を約2か月間していました。



前列左から浅野さん、片岡さん
後列左から松下施設長、中村さん

——片岡さんは施設長も務められた**片岡** 施設長の働く方々の管理や、施設の経営面も支えなければならず、私はそのような器ではないと2年間で退かせてもらいました。でも、この施設が大好きなので「看護師として続けて働かせてください」とお願いしました。

——施設での「看取り」も神戸では早くから取り組まれていました。**片岡** 病院ではなく施設で最期を迎えたいという方には早くからご希望を叶えるようにしていました。看護師として勉強したエンジェルケアの経験を施設でも活かして実践していました。この施設の設定時に5千万円を寄付してくださった金谷星(キム・ヨンソン)さ

んが施設で旅立たれたときも誠心誠意お化粧をすると長女さんから「お母さん、きれい。若くなつて」と、涙されお礼を言われたことも心に残っています。

浅野 私は特養の介護職員として働き始めました。その後、介護福祉士とケアマネージャーの資格を取得し施設ケアマネージャーになりました。でも様々なストレスが重なり一度辞め、その間に福祉環境コーディネーターの資格も取りました。退職して3年後の2016年、大好きな朴正米施設長(当時)から「戻って働いてもらえませんか？」と電話をいただいたときは嬉しくてね。すぐに施設に戻りました。振り返ると特養で介護職員として働いていたときが一番楽しかったです。

仲間に恵まれ楽しかった

——皆様、開設間もないころから約20年間も動続できたこの施設の魅力はなんですか

片岡 ひとえに人間関係がいいところではないでしょうか。神戸のデイサービスはご利用者さん2人で始まりましたが、開設当初の職員メンバーに恵まれたとつくづく思いますね。働いていてすごく楽しかったし辞めたいと思つたことはありませんでした。

中村 やはり人間関係が良かった。それに尽きると思います。人間は1人では生きていきません。父は寡黙な人でしたが「人が嫌がることは絶対するな」と、常々言っていて、それを今でも守っています。いろんな意味で人間は認め合つて

いかなければいけない。神戸は職員もご利用者もみんなが支え合つて、認め合つた施設だと思います。

韓国に出会えた

浅野 私はこの施設で「韓国」に出会えたことが最高の宝です。当時この施設にはまだ在日一世のご利用者さんがたくさんいらして韓国語が飛び交っていました。中でもお一人のご利用者さんは日本語をあまりしゃべれなくて、この方と韓国語でコミュニケーションとりたいな、と韓国語の勉強を始めました。NHKテレビのハンゲル講座のテキストを買って、講座で言葉を一つ覚えると次の日施設でそのご利用者さんに話すという繰り返しで覚えていきました。

その後「冬のソナタ」がブームになりいつそう好きになり、1年に2〜3回は韓国に行つたかな。その頃は、韓国からいらした研修生ともつながりがあり韓国に行く機会もつなっていました。同時に韓国の工芸などの文化も好きになりました。韓国の博物館という博物館に行きました。韓国の街では現地の人に「アジュンマ(おばさん)！」とよく声をかけら

れて道を尋ねられるんです。それほど馴染んでいるのかな？ 寝言もハンゲルで言うらしいです(笑)

「珍道中」の思い出

——韓国のごようなところに魅了されましたか

浅野 日本では忘れかけている親孝行や目上の人を敬う文化です。小さい子どもさんでも敬語が使えるんですよ。親が教える。それがすごいなと感じます。韓国でも最も丁寧なお辞儀「ンジョル」を見たときは感動しました。また、韓国ドラマは奥が深くて嗚咽して泣きながら観ることがあります。

片岡 昨年亡くなった主人も韓国ドラマが大好きでした。韓国木浦で開催された「田内千鶴子生誕100年」の式典には浅野さんが韓国行きスケジュールをたててくれボランティアグループ・サランの会の人たちと「浅野ツアー」と称して出向きました。式典には神戸で研修していた研修生も来てくれて。その方は結婚されてご主人は共生園の職員さんだったことにもびっくりでした。

浅野 木浦からの帰りの新幹線では終点の1駅前で終点と勘違いして「降りなあかん！」とみんな慌てて。でも片岡さんは親切だから寝ている知らない乗客にも「着きましたよー」と起こして(笑)。まさに珍道中本当に楽しかったです。

片岡 しばらくぶりに施設に来て1つだけ寂しいことがありました。花壇が更地になって花が残ってなかったこと。私がいなくなつても咲くようにと多年草のお花を植えたんですけど。

松下 片岡さんは施設や法人のお花の指導者でした。法人の行事のときのお花を生けてくれたり、シンポジストの胸に付ける生花を作ってくれていました。フラワーアレンジも上手で。花のある施設はこれからも心がけます。

片岡 職員さんの結婚式のブーケを作らせてもらったこともあります。今、我が家のベランダも花がいっぱいで友達に「花屋さんみたい」と驚かれます。

——これからしてみたいことは**中村** 今も知的障がいを持つ人たちの作業所で半分ボランティアみたいなことをしています。兄が会社を経営していましたが亡くなってしまい、跡継ぎがいなかったので私が定期的に行くなどしています。そのような仕事があることで健康が保たれていると思います。

片岡 私は我が家のベランダの花を美しく咲かせることです。毎日、色の組み合わせを考えて、この花はこちらになど今は娘も手伝ってくれ寄せ植えなどを楽しんでます。

浅野 これからもコンスタントに韓国旅行に行きたい。まだ、行けてないところがいっぱいあります。

——まだまだ先の話ですが、だれかのサポートを受けなければいけないようになったら故郷の家にこられますか

中村 私は家で死にたい。**片岡** そうねえ。私も家がいいけど施設に入居しなければいけないようになったら故郷の家を選びます。

浅野 私は韓国で老後を過ごすのが夢です。

(聞き手 横山まゆみ)

105歳の誕生日、おめでとうございます！

故郷の家・東京の最高年齢保持者・野澤サト子さんが、去る3月23日、105歳を迎えました。

野澤さんは1921年（大正10年）東京生まれ。結婚して江東区に住み、一男二女を育てました。

30年前、75歳のとき、埼玉県に嫁いだ次女に呼ばれて夫婦で引越した。

その6年後、81歳のときに夫が亡くなり、10年後に次女も60歳で亡くなり、長女に引き取られ江東区に戻ります。

長女夫婦と3人で暮らして始めてホッとした矢先、長女の夫が認知症になり徘徊や失禁等の介護が必要となりました。

そんな中で故郷の家・東京の入所が決まりました。93歳でした。同時に夫もグループホームに入所。母親と夫の2カ所の施設への面会で、80代の長女さんが疲弊してきた今年1月、夫も故郷の家・東京に入所することになりました。

105才の誕生日祝いは、その長女さんの夫さん（義理の息子）も、おめかしして参加。母親、夫の介護に苦労してきた娘さんの笑みもはじけました。90歳ころから視力が衰え、今はほとんど見えないけれど、昔の事を思い出してニコニコと独り言。職員には必ず明るい声で「ありがとうさいますます」。

その言葉にスタッフ一同、癒されています。来年も、誕生日会やりましょうね！



東京



神戸



旧正月は 歌謡曲で楽しいひととき

2月17日（火）、旧正月ソルナルの行事を行いました。

多文化フェスティバルに特別ゲストとして参加された KEI さんをお迎えし、迫力ある魅力的な歌声により、利用者様も一緒に大いに盛り上がりました。

懐かしい日本や韓国の歌謡曲を披露していただき、楽しいひとときを過ごしました。



3月24日（火）、アルカディア音楽芸術財団「煌めきラブリートコンサート」を開催しました。

クラシック専門のフルート奏者、声楽家、ピアニストによる映画の主題歌やクラシックの名曲を披露していただき、美しい音色に包まれ、穏やかで心安らぐひとときを過ごしました。



煌めきラブリートコンサート



花見ふるさとカフェ&花見ドライブ



気温も温かく晴天。絶好の花見になりました。春の風を感じながらの桜の下でのふるさとカフェ。ご利用者はお好きなケーキと飲み物を選んで頂き、おいしく食べられました。次回の開催日を探ねられるご利用者も居られ、大好評でした。

花見ドライブでは近辺の公園や桜スポットをドライブしました。見覚えのある景色や桜を観られ、楽しいひと時を過ごせました。

健康予防体操を行いました



ヨガインストラクターの川口真理子先生をお迎えし、健康予防体操を行いました。わかりやすく丁寧なご指導のもと、和やかな雰囲気で行いました。

ご利用者の皆様は1時間ほど集中しながら最後まで参加し、「楽しかった」との声が多く、心身のリフレッシュで有意義な時間となりました。



堺

京都



韓国のお正月



故郷の家・京都では、2月17日に「旧正月」の行事を執り行いました。

旧正月とは、旧暦におけるお正月のことで、新暦の1月1日とは異なり、毎年日付が変わります。主に中国や韓国、ベトナムなどアジアの国々で祝われ、2026年の旧正月は2月17日でした。

韓国では、家族で集まり、ご先祖様を供養する儀式を行い、儀式の後には、韓国版のお雑煮のような伝統料理を食べます。

故郷の家・京都では、チマチョゴリを着飾ったご入居者が、順番に香を焚き、手を合わせて、ご先祖様に祈りを捧げました。

一通り儀式が終わると、ボランティア公演として、「金一志韓国伝統芸術院」の皆さんに楽器や踊りを披露していただき、その素晴らしい演奏や舞に皆さん感動されていました。

全てを終え、最後に皆さんで記念撮影。

今年の韓国のお正月はいつも以上に盛大にお祝いすることができ、皆さん大変満足された様子でした。

介護技術研修を実施

故郷の家・京都では、2024年度に5回、2025年度の5回に渡り、外部講師の方をお招きして、介護技術研修を実施しました。

2025年度最終の第5回目(2月26日)に実施され、参加した職員は日々の介護に活かせるように、また参加していない職員に伝達できるように、講義及び実技を習得しました。

最終日のこの日は、ベッド上のポジショニングをテーマに、拘縮のある方の安楽なポジショニングを実践形式で学びました。

介護職員からは自身のユニットのご利用者を想定しながら、講師の方にアドバイスをいただいたり、また自身のご利用者役になり、理想のポジショニングを体験しながら学んでいきました。

今回で2025年度の介護技術研修は終了となりますが、来年度も継続して、ご入居者及び介護者のために介護技術の向上に努めたいと思います。



■ 共生園（養護施設） みんなと一緒に幸せな旧正月

旧正月を迎え、子どもたちと一緒に伝統の意味を考えながら、温もりあふれる時間を過ごしました。朝はみんなで温かいトックツ（お雑煮）を食べ、その後ユンノリ、チェギチャギ、投壺遊びなどの民俗遊びに熱中しました。子どもたちは勝負の世界を楽しみながら、賞品ももらって旧正月の喜びを満喫しました。

午後は自由時間で、ホームごとにやりたい活動を選びました。キッズカフェ、プレイパーク、ボウリング場、ローラースケート場などで思い切りエネルギーを発散してストレスを解消して楽しんだ後、ビュッフェレストランで美味しい料理を囲みながら、心身ともに充実した旧正月を過ごしました。



■ 共生再活院（知的障害者施設） テコンドー体操で育む健康と自信



障害者スポーツ講座で、週2回テコンドー体操の授業を行っています。最初は慣れなかった動作も、繰り返し練習することで慣れてきて、ご利用者の皆さんは身体機能が向上し、自尊心も高まっています。

テコンドー体操は単なる運動に留まらず、健康や自信の回復、希望を育む大切な時間となっています。これからも温かい応援をよろしくお願いいたします。

■ 木浦障害者療養院（重度障害者施設） 「ポップアート美術教育」に参加しています！

社団法人全南障害者リハビリテーション協会による〈2026「ポップアート美術教育」出張プログラム〉に参加しています。全羅南道の特別支援学校や障害者福祉施設から6カ所を選定して支援する今回の事業に、当施設が選ばれました。現在は10名のご利用者が毎週いろんなポップアートパネルを制作しながら、その腕前を披露しています。





皆様のご支援に感謝申し上げます



2026年2月～2026年3月 寄付合計 2,395,355円

堺	212,390 円	京都	786,249 円
大阪	0 円	東京	171,586 円
神戸	121,714 円	法人	1,103,416 円

2026年2月～2026年3月の寄付者 (敬称略)

趙 貞淑 李 善恵 栗原 彬 在日大韓基督教会 京都南部教会 山田 康子 田内 緑 高齢者長期療養施設協会 金 香溶 金 東春 白 光鉉 藤原 一臣 李 守陳 中村 啓子 藤田 裕之 星田 正雄 ペン株式会社 金氏高麗人参株式会社	有限会社テラフ貨物店 佐藤 美津子 枝川 愛の教会 吉澤 まゆみ 株式会社ヤマエンター プライズ 代表取締役 池 正淑 株式会社スポーツ寿苑 代表取締役社長 鄭 貞子 瀧澤 織衣 ながやま歯科 院長 永山 成大 中嶋 美恵子 村上 文子 元 花子 松下 令子 柳川 良子	青木 玉江 宋 基泰 中村 竜善 柳村 順 和氣 純子 大阪府共同募金会 堺地区募金会 新本 慶子 田内 文枝 松岡 虔一 藤原 興 四宮 章夫 高林 實結樹 株式会社 三晃設備 梅宮 玉枝 樽井 幸一郎 北脇 志郎 北脇 要子	与島 正彦 多田出 佳代子 鈴木 仁 青木 茂 浅野 和子 オートプロ島田 島田 隆男 いつくしみの聖母会 株式会社金嶋 代表取締役 金嶋 昭夫 森本 弘義 柳 時京 菅野 俊美 小林 四郎 太田 清孝 峯岸 義則 多田 肇	徳岡 暁波 「ハートサービス運動」 募金箱 佐藤 友美 故郷の家東京 募金箱 株式会社グローバル 代表取締役 川島 忠義 南区認知症サポート ネットワーク 全 東一 宮本 浩吉 張 連順 有本 正子 米田 眞理子 王 寛一 蔡 福美 吉田 津志子 白方 誠彌
--	--	---	---	---

2026年2月～2026年3月の寄贈者 (敬称略。すべての方のお名前を記しているわけではありません。ご了承ください)

■故郷の家(堺) 江上 光子ご家族 野中 勝喜ご家族 松田 文子ご家族 崎川 貞子ご家族 岡田 昭子ご家族 芦口 義令ご家族 中村 美智子ご家族 あゆみ介護センター ながやま歯科 宝塚医療大学 永井芳子 藤重 奈那子 佐藤 友美 阿南 光 阿南 裕美 金 一姫	川瀬 美保 藤田 チェコご家族 生駒 富士 浅野 和子 平野 竜一 池永 京子 新本 慶子ご家族 木村 勝利 服部 京子 洪 インスン 茂山 静枝 岩本 文枝 中田 康子 羽谷 宗一郎 酒部 和子 金 又姫 協同病院 湊 正行 川嶋本店 ㈱テストリアル 中村 仁昭 タカギエレクトロニクス 西神戸高等特別支援学校	平安祭典 松下 裕夫 青田 都子 藤田 チェコご家族 金 泰淑 池田 孝志 井川 タカ子 茂山 静枝 金本 日石 金 又姫 ブ バンミン	竹田 光世ご家族 長谷川 ちよご家族 山本 秀子ご家族 松本 花子ご家族 山下 定子ご家族 嘉門 和美ご家族 横道 日出次ご家族 中村 竜善 こなか医院	式守 悦子ご家族 瀧澤 トミ子ご家族 佐藤 那可子ご家族 海發 孝子ご家族 中出 外史郎ご家族 山崎 好子ご家族 肥沼 トミ子ご家族 中島 満ご家族 日本コロムビア歌手 金嶋 昭夫 Ohana治療院 平安祭典 ekoデンタルクリニック 院長 高垣 江津子 医療法人社団 修世会木 場病院院長 大井田 基 株式会社 テスティバル 聖華しおかぜ保育園 株式会社 MALONIC.
■故郷の家・神戸 金 君子 金本 日石 岩本 健一 津田 智恵子	■故郷の家・京都 東前 綾子ご家族 田中 つよご家族 金 宝熙ご家族 村田 秀子ご家族 近藤 貞子ご家族 利川 貞子ご家族 京山 君子ご家族 岩本 基鎬ご家族 安本 美智子ご家族	■故郷の家・京都 鄭 仁淑(カラオケ) 「懐メロ聴くの会」3名 (カラオケ) 京都 PANA-ALC 4名 (傾聴ボランティア) 金一志韓国伝統芸術院 7名(旧正月)	■故郷の家・東京 加藤 ゆり子ご家族 尾崎 好江ご家族 権 再南ご家族 金 淑貞ご家族 中西 友子ご家族 佐瀬 絹繪ご家族 加瀬 チエご家族	東 公平ご家族 平間 泰治ご家族 芳賀 初子ご家族 細川 敏子ご家族 坂本 茂人ご家族 吉田 房子ご家族 野澤 サト子ご家族 Ohana 治療院 枝川愛の教会 スマイルプラン

2026年2月～2026年3月の来訪者・ボランティア (敬称略)

■故郷の家(堺) 体操ボランティア 川口眞利子 泉北キリスト恵み教会 松本光恵 小田ヒターナ	■故郷の家・神戸 オカリナサークル 「ポップコーン」 神戸教会(4名) サランの会 (岸田重徳他10名)	■故郷の家・京都 鄭 仁淑(カラオケ) 「懐メロ聴くの会」3名 (カラオケ) 京都 PANA-ALC 4名 (傾聴ボランティア) 金一志韓国伝統芸術院 7名(旧正月)	■故郷の家・東京 加藤 ゆり子ご家族 尾崎 好江ご家族 権 再南ご家族 金 淑貞ご家族 中西 友子ご家族 佐瀬 絹繪ご家族 加瀬 チエご家族	東 公平ご家族 平間 泰治ご家族 芳賀 初子ご家族 細川 敏子ご家族 坂本 茂人ご家族 吉田 房子ご家族 野澤 サト子ご家族 Ohana 治療院 枝川愛の教会 スマイルプラン
--	--	---	--	--

◆◆◆ クロスワードパズル ◆◆◆



プレゼント

前号でご紹介した演歌歌手・金嶋昭夫さんの代表曲「恩送りの人生」のCD、同じく金嶋さんの同名の著書「恩送りの人生」を正解者の中から各1名様にプレゼント。応募時にどちらをご希望かお書きください。

応募は、クロスワードパズルの答、住所・氏名・電話番号をお書きのうえ、はがきなら〒590-0142堺市南区檜尾3360-12「故郷の家・クイズ係」へ、メールでの応募はnews@kokorono.or.jpへどうぞ。6月10日締め切り。

本誌をお読みになった感想、メッセージなどどうぞお書き添えください。よろしく!

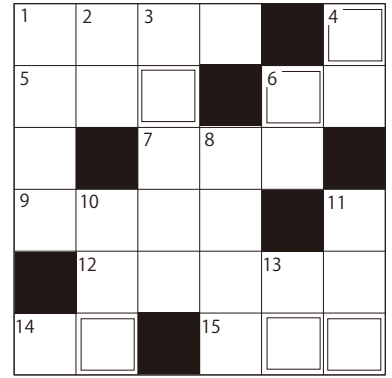
二重マスの文字を組み合わせてできる言葉を答えてください。

【ヒント=…祈ります】

※前回の答は「ユキドケミズ(雪どけ水)」でした。

➡ ヨコのカギ

- ①「通常」「臨時」「特別」があります。
- ⑤地球の——はどうなるのでしょうか…。
- ⑥ご飯をたいたり湯を沸かしたり。
- ⑦政治家がよく使う(?)「——にございません」。
- ⑨苦笑い。
- ⑫友への情愛、信じる心。
- ⑭苦労が水の——だ。
- ⑮動植物が、山野で自然に育ち、生きていること。



↓ タテのカギ

- ①マンガのこと。
- ②顔。「どの——下げて…」。
- ③「津軽」「関門」「ホルムズ」といえぼ。
- ④失敗。
- ⑥斜めにどこまでも進めます。
- ⑧その分野の第一人者。——の風格。
- ⑩おもに聴覚に障害のある人が使う言葉。
- ⑪あなたの意見に——します。
- ⑬落語などの演芸を楽しみます。

「故郷の家」では共に働く仲間を募集しています

- ◆人と地域に寄り添う、心温まる仕事です!
- ◆文化的なプログラム(行事)も豊富で楽しい職場です!



施設見学
随時受付中!
お気軽に

お問い合わせ先:大阪府堺市南区檜尾3360-12
法人本部事務局 松下宛
TEL:072-271-0881 FAX:072-271-5474
メールアドレス:honbuzimukyoku@kokorono.or.jp

こころの家族のサポーターになってください

- A) 愛の寄付金 自由な金額
- B) 遺贈寄付 自由な金額
- C) 相続寄付 自由な金額
- D) 賛助会員 月 1,000 円 (年 1 万 2 千円)
- E) 奨学会会員 (留学生や孤児・障害児支援) 月 5,000 円 (年 6 万円)
- F) 1%会員 (所得、売上、祝儀、遺産、感謝)
- G) 1坪会員 (施設の新築・改築や環境改善支援) 30 万円

ご送金の方法

郵便振替 □座番号: 00940-0-329280
加入者名: 社会福祉法人こころの家族
銀行振込 銀行名: 三菱 UFJ 銀行
支店名: 光明池支店 普通 1052623
口座名義: 社会福祉法人こころの家族

私たちが願う社会は
「安心して子どもを生み育てられる社会」
「違いを受け入れ、助けあう社会」
「長寿を喜ぶ社会」
「みんなで参加して共につくる社会」
この国に住む外国人が
日本は良い国だと言える
社会づくりです。



お気軽に
お問い合わせ
ください。

故郷の家のご利用相談や
寄付。困っている高齢者、
留学生、外国籍の方も

■故郷の家(堺) 朴正米(施設長)
大阪府堺市南区檜尾3360-12 TEL 072-271-0881
ブログ <http://kokyosakai.blog40.fc2.com/>

■故郷の家・神戸 松下良平(施設長)
兵庫県神戸市長田区東尻池町7-4-21 TEL 078-651-1555
ブログ <http://kokyokobe.blog40.fc2.com/>

■故郷の家・京都 藤原一臣(特養施設長)
山田善太郎(ケアハウス施設長)
京都府京都市南区東九条南松ノ木町47 TEL 075-691-4448
ブログ <http://kokyokyoto.blog41.fc2.com/>

■故郷の家・東京 高橋千津子(特養施設長)
塩川優子(ケアハウス施設長)
東京都江東区塩浜1-4-48 TEL 03-3644-0555
ブログ <http://kokyotokyo5.blog.fc2.com/>

本法人は統一教会とは関係ありません

